みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

信仰関係資料

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 笹原, 亮二 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00001440

横川公子・笹原亮二編『モノに見る生活文化とその時代に関する研究』
国立民族学博物館調査報告　68:69−71(2007)

信仰関係資料

笹原　亮二

1　大村しげコレクションの信仰関係資料

大村しげコレクションに含まれる信仰関係資料は，社寺や民間信仰との関わりを直接的に示す資料に止まらず，何らかのかたちで多少なりとも信仰的性格が認められる資料を含めると，決して少ない数ではない。ここでは信仰関係資料を，後者を含んで広く考えておきたい。

それらの信仰関係資料は，先ず，日々の生活において，しげ[1)] や父親金次郎や母親ウノによって実際に使用された品々と，しげが京都を初め，各地の料理・童歌・手仕事などの地域的･伝統的な文化に寄せてきた興味関心に基づき，意識的に収集したり，保持したりしてきた品々に大別される。両者は，前者が黒ずんだりシミが付いたり，場合によっては破損したり，明らかな使用痕が認められるのに対し，後者は新品か新品同様で袋や箱に入ったままのものも多数見られ，外観上もはっきりと区別できる。

2　使用された品々

しげを初め，大村家の人々によって実際に使用された品々としては，地蔵・観音などの仏像，恵比寿や大黒天などの神像，鉦類・香炉・燭台・御神酒徳利などの仏具や神具類，京都各地の寺社から頒布された火難除け・厄除け・開運招福などの御札や護符や，祇園祭の粽・おけら火の縄などの縁起物などが挙げられる。

仏像や神像，仏具や神具類は，彼女が暮らしていた住居の１階奥の間に，祇園にあった両親宅から移された仏壇や神棚に安置されたり用いられたりしていたもので，そこには御札や護符も収められていた。また，仏壇の引き出しには，両親の葬儀の際の香典控や会葬者芳名控などの書類や，父親金次郎の寺への喜捨や永代供養に関する書簡や得度願いといった寺院とのやり取りに関する書類も収められていた。御札や護符や縁起物は，仏壇や神棚のほか，火難除けに関するものは台所に，厄除けに関するものは玄関近くにというように，住居内のそれぞれの御利益に関わりのある場所に置かれたり，貼り付けられたりしていたものもあった。御守りでは，使用痕が認められる財布と共に残されていたものもあった。

父親金次郎の宗教活動に関するものとしては，前述の仏壇に収納されていた書類のほかにも，各地の寺社との様々な関わりを示す書類や物品が残されていて，彼の宗教に対する熱心な姿勢が窺える。「京都祇園 弥栄組 真明院」と染め抜かれた半纏や袈

袈裟や帯や頭巾などの着古された行衣類や，それを着用した姿を撮した写真も残されていた。また，『本山修験勤行要集』や『登山勤行』などの勤行のテキストや『観音経』など，使い込まれた形跡がある各種経典類も見られ，彼の宗教活動がかなり本格的であったことを物語っている。

大村家と各地の寺院との関わりを示すものは，こうした金次郎個人の宗教活動に関わるもの以外にも多数見られる。奥の間の仏壇の背後には，僧侶の肖像写真や書状，経文を入れた古い額が掲げられていた。また，東林院・月心寺・東光寺などの僧侶から送られた書画・色紙・短冊・団扇・扇などが大量に残されていた。それらの中には，金次郎宛の封筒や年賀の挨拶状と共に収納され，送られた際の状況を伝えているものもあったが，数量的には古いものよりも新しいもののほうが多い。このことは，寺院との密接な付き合いが，金次郎に止まらず，彼の没後しげの代にも継続して営まれていたことを示している。前述の御札や護符や縁起物類にもそうした付き合いがあった寺院が頒布したものが見られた。特定の寺院との関わりということではないが，『西国詠歌集』や『諸国霊場御詠歌』といった御詠歌や和讃や御題目などのテキスト類の，製本出版されたものから一枚刷りの簡便なものまで様々な形式のものが残されていた。

各地の寺社の拝観券やリーフレット・パンフレット類も大量に見られた。本能寺・大覚寺・南禅寺・北野天満宮・ゑびす神社など，京都を中心とした近畿圏の寺社が大多数を占めるが，瑞泉寺・日光東照宮など遠方のものも含まれている。これらはしげが寺社を訪れた際のものと思われる。寺社への訪問は慰安や観光が主たる目的であったとも考えられるが，その場合でも形式的にせよ参拝が行われたとすれば，多少なりとも宗教的な性格を帯びていると見ることも可能である。寺社を題材にした絵葉書も多数残されていて，それらも同様に広い意味での信仰関係資料ということができる。絵葉書は京都の寺社に関するものが多いが，出雲大社や鎌倉の寺社など遠方のものもあり，戦前の古いものも見られた。

3　使用されていない品々

一方，しげが意識的に収集し，保管してきた品々としては，十日戎の箕の飾り物・打ち出の小槌などの縁起物，藁馬・魔除け虎・流し雛などの信仰的な由来を有する土産品風のものや天神や福神などの信仰対象をモチーフとした土人形などの郷土玩具，干支の動物や達磨などを象った置物などが挙げられる。これらの多くは前述のように，汚れが全く見られなかったり，箱入りで包装されたままであったり，使用痕がほとんど認められない。それらは，小絵馬がほとんど京都の地主神社やゑびす神社のものであったように，京都の寺社に因むものが多いものの，郷土玩具の場合は中国地方から東北地方まで全国各地のものが見られ，京都に限られているわけではなかった。こう

したあり方は，実際に用いられた信仰関係資料がほとんど京都の寺社のものであったのと対照的である。御守りや御札や護符類の中にも袋に入ったままのものや汚れが全く見られないものがあり，それらも収集自体が目的であった可能性がある。

祇園祭に関する品々も多数残されている。長刀鉾や観音山などの山鉾のミニチュアの置物・山鉾の絵葉書・パンフレットなどであるが，絵葉書は様々な山鉾の未使用のものが大量に残されていた。珍しいものに，1983（昭和 58）年の NHK 特別番組「祇園祭どすえ――コンチキコン」放送台本もあった。

未使用の縁起物や郷土玩具，祇園祭関係品は，しげが自らの興味関心で集めた趣味の品，あるいは執筆活動の資料として集めたものとも思われるが，彼女が全国各地の手仕事の製品を商う店を自宅で開いていたことを考えると，そこで扱う商品，あるいは商品のサンプルであった可能性もある。同じものが複数個未使用で残されていた場合は，その可能性が高いのではないだろうか。

そのほかのものとしては，高島暦・ゑびす暦・いなり暦などの暦本が多数残されていた。1964（昭和 39）年から 1995（平成 7）年にかけてのもので，それ以前の古いものは見あたらなかった。使用された形跡もあまり認められず，それらが実用品か収集品か，判断は微妙である。

4　信仰関係資料の地域性と個性

以上，大村しげコレクションに含まれる信仰関係資料について概観した。それらからは，寺社や民間信仰と浅からぬ関係にあった，しげの日々の生活や彼女が抱いてきた興味関心のありようを窺い知ることができる。そうした結び付きが形成されたのは，ひとつには，彼女が生まれ育ち，暮らしてきた場所が，昔から寺社が多数存在し，それらと深い関係を持ちつつ人々の生活が営まれてきた京都であったという，京都の地域性に起因するということもできるが，それだけではないかも知れない。彼女の日々の生活では仏教との関わりの深さが目立ったが，それは，父親金次郎の精力的な宗教活動を考慮すると，金次郎の影響下で培われたものであった可能性も出てくる。更には，彼女の精進料理に関する興味や関心[2]も，単に京都という地域性だけでなく，父親譲りの宗教感覚という文脈において理解することも可能かも知れない。とはいえ，そのあたりの判断は個々の資料を詳細に検討した上でなくては適わない。今後の課題としたい。

注

1）本稿では，人物に関する敬称はすべて省略した。

2）例えば，彼女の著作に『京の禅寺と精進料理』（1988 佼正出版社）がある。